

平成27年度福島県立相馬養護学校 タブレット端末を活用した地域との連携事業（2年次）

平成27年度公益財団法人福島県学術教育振興財団助成対象事業

<事業の紹介②>

【高等部・中学部の産業現場等における実習のタブレット端末活用の取組】

中学部・高等部では、生徒の社会参加と自立をめざした日々の教育活動、進路指導を展開しています。取組の中で、両部で「産業現場等における実習（※以下：実習）」を実施しています。今年度から、一人一人に応じた指導の充実につながる手立ての一つとして「タブレット端末（以下：端末）の活用」を開始しました。実習中、事前・事後学習も含めて、生徒の様子と合わせて端末の活用について紹介します。

（1）高等部の取組

高等部では、6月と11月に「産業現場等における実習」を実施しています。6月の実習は3年生が校外での実習となり、地域の企業や事業所等の関係機関のご協力の下、実習に取り組んでおります。1・2年生は校内での実習となり、作業学習で取り組んでいる「紙すき班、陶芸班、織物班、総合サービス班」に分かれ、普段よりも長時間の8：45から14：30までの作業を実施しています。校外・校外共に、それぞれの段階に応じて、実習を通して、「働くことの大切さ、難しさ、厳しさ」を学んでいます。

今年度高等部では、実習の「事前指導、実習の様子、取り組んでいる作業の振り返り」の学習の取組の一つとして端末を活用しました。事前に実習先に出向いて、作業の様子や外観等を写真や動画で端末に記録し、生徒たちの事前学習に利用しました。生徒は実習先の環境・作業内容について自分で確認しやすくなり、見通しと意欲につながりました。また、実習中の様子についても複数台の端末で記録しました。作業中に生徒自身が端末で写真や動画をすぐに見て気づ



<校外・校内実習の一場面を紹介>

かなかった課題を確認できたり、良かった点を教師と一緒に確認したりすることができ、生徒たちの肯定感や達成感を高めることができました。実習報告会に向けて、校内・校外で記録した複数の動画を編集しました。報告会では、高等部全生徒、職員、保護者で視聴し、頑張った点の振り返りと次回・今後への目標を共有することができました。



（2）中学部の取組

中学部では、前期と後期の2回に分けて「産業現場等における実習」を実施しています。1・2年生は校内で外部から仕事を受注し「段ボールのバリ取り・組み立て」や「トマト箱の組み立て」などに取り組む、3年生は校外に出て福祉事業所での実習に挑戦しています。3年生は実習先の福祉事業所で行っている作業に取り組むため、毎日同じ作業内容とは限りません。付き添いの教師と一緒に実習に取り組めますが、事業所から依頼されたどんな作業にも対応していく柔軟性や理解力、長時間作業し続ける集中力が必要になってきます。

今年度中学部では、実習において端末の活用を試みました。実習前の事業所との打合せでは、3年生の普段の作業学習の様子を端末で撮影し、生徒の紹介や実態を事業所の担当者に映像を見てもらいました。担当者の方からは「刺し子の作業内容は、とても細かく大変にもかかわらずしっかりと集中していて驚きです。」という意見をいただき、端末を活用することで文書だけで伝えた昨年よりも、伝えたい情報をダイレクトに伝えることができたと感じています。また、打合せで実習先の福祉事業所を訪問した際に、実習先の様子を端末で撮影し、実習前の事前学習に活かすこともできました。実環境を事前に写真で確認したことで生徒たちはある程度見通しをもつことができ、実習当日は緊張しながらもスムーズに行動することができました。実習中は、生徒が実習に取り組む様子を撮影しました。事後学習の実習反省会の中で1・2年生に3年生の実習



<校外実習、実習反省会の様子>

の取り組みを映像で伝えることは、「1年後、2年後は自分も校外に出る！」という将来の見通しや「作業学習をもっと頑張るぞ！」という普段の作業学習・実習への学習意欲につなげるための大切な機会だと考えています。

今後も、高等部・中学部共に、端末の活用も含めて、進路指導、産業現場等における実習の指導においてより一人一人に応じた指導の工夫をしていきたいと思ひます。

